

# 秋の叙勲

令和2年11月3日に発令された、秋の叙勲の市内受章者を紹介します。



瑞宝単光綬章 (消防功労)

前田 欣一 さん (85歳)

前田欣一さん(香北町朴ノ木)は、昭和38年に香北町消防団に入団してから平成18年まで、40年以上の長きにわたり、消防防災活動に従事して来られました。

香北町消防団副団長に就任してからは団長を補佐し、消防団組織の充実強化、団員確保に努められ、また、幹部団員として部下の指導育成にも尽力されました。

在職中、特に心がけていたことはありますか、と尋ねたところ、「サイレンですね」と答えられました。どこにいても、サイレンが鳴れば現場に駆け付け、消火活動や捜索活動を行い、被害を最小限に食い止めるということを意識して活動してきたと語ってくれました。ただ、昼夜を問わず鳴るサイレンで、奥様に負担をかけてしまったともおっしゃられ、「この受章は私一人の功績では無く、周りの支えがあつてのことです」と笑顔で取材に答えていただきました。

## 香美市文芸 風の流氷

◆一般投稿作品◆ 岡崎桜雲 選

身に入むや母の言葉の九十路  
空見上ぐこと繁くなり暮の秋  
蝸や別れの言葉繰り返し  
林檎むく赤い頬つべを泣かせつつ  
ぼた餅の力で肥料打ち混ぜる  
団塊は疎まれ踏まれ萎の花  
貼り替へし障子に遊ぶ影絵かな  
コロナ禍に神事で終へる山開き  
足病い台風の度水門へ  
手にかけて茄子の色の黒光り  
頬冠り母はせつせと畑を打つ  
籟笛人に一つの罪がある  
せせらぎにそと手をのべて野菊ゆれ  
幾千年蚕屋に時雨るる時の層  
背を丸め秋深みゆく里恋し  
朝寒し目覚まし止めてあと五分  
庭草の茂りしままに秋暑し  
刈取の後はカラスの憩いの場  
夏雲や多き棚田に老ひとり  
柿二つ梢に残る空の青

東 月  
中村 紫乃  
山崎 雅也  
前田 裕子  
島山 千江  
原 茂  
山崎 貴子  
秋山 英身  
楮佐古きよ  
溝淵 龍泉  
大場比奈子  
森本 幸美  
西野地 薫  
秋 星  
岡本 初美  
吉川 恵  
明石 敬恵  
五百蔵利美  
小原 子川  
高田 俊祐  
北村 幸子  
北村 里子

干し上げし笹にチリチリ唐がらし  
目の会うて直きに失せたる穴惑  
穏やかな午後の日を裂き鳴高音  
月明やものの影濃く落としたる  
求めたる一書小脇に後の月

小野川順子  
中内ゆかり  
前田 芳子  
高田 米子  
甲藤 卓雄

◆かがみ野俳句会◆

槍頭林立一揆の地なりけり  
備前壺に暮色束ねて杜鵑草  
ふる里を恋しく想ふ夜長かな  
夕ざれの風にうなづくおみなへし  
草稿や書きてまた消すちろの夜  
流星やしばし見上ぐる通夜もどり

大畠 新草  
古川 信子  
利根 弘子  
山崎 鈴子  
坂元 道子  
佐竹 洋子

◆かほく俳句会◆

秋夕焼富枝と婉のどこか似て  
間引菜にちりめん雑魚の夕餉かな  
山雀の軒端に通う一周忌  
江戸切子青の深さに冷酒くむ  
青空の色より淡く水澄めり  
団栗を拾ひ呆けて日暮たり  
賜りし小春日和と勲章と  
限界の集落となり彼岸花  
順序よく逝くものでなし残る菊  
黄昏れのひと際燃ゆる鶏頭花  
稲抜きあはきはほてりに身をさらす  
風の庭落葉を作り続けをり  
長き夜の机に舂もれきたる  
頬を打つ風なまぬるき野分かな

乾 真紀子  
黒岩千英子  
小松 昇  
杉山 春萌  
津田吾燈人  
野村 里史  
前田 欣一  
前田 智  
宮崎ただし  
宗石 愛喜  
森本 之子  
山崎かずみ  
山中 明石  
山中 節子

◆土佐山田町俳句会◆

も一人の佐那の奥津城龍馬の忌  
潮騒をずっと聞いている榎村忌  
ガリラヤは遠し素秋の影のびて  
台風に召されし友は繁藤に  
今日の憂さ湯舟に溶かず秋の夜  
昭和史の母の一日のヨイトマケ  
冬山のふもとに赤き牛の小屋

明石 蕨生  
安丸 槇子  
前田美智子  
西内 道彦  
笹岡 英世  
榎谷 雅道  
田村 一翠

今月のキラリ

柿二つ梢に残る空の青  
澄み渡つた青空の下、収穫を終えた柿の木  
に一つ二つ取り残してある柿は、その年の柿  
の木に対する豊作のお礼で木守り柿という。  
陽が西に傾き、照り返す光に輝く柿は秋か  
ら冬へ移行行く在所の風物詩である。

広報委員会

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。  
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。  
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

投稿先 総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌係」  
〒782-18501 (住所記載不要) FAX 53・5958

## 香美市民憲章 平成24年4月1日制定

前文 私たちの香美市は、美しく、豊かな自然に育まれています。先人が築き上げた尊い文化や伝統を受け継ぎ、人々が愛と勇気を心に持ち、誰もが幸せを感じられるまちを目指し、ここに市民憲章を定めます。

- 本文
- 1、豊かな自然を守り、美しいふるさとを未来に届けましょう。
  - 1、互いに思いやり、ささえあう、心安らぐまちにしましょう。
  - 1、歴史に学び、伝統を守り、高め、文化の香りあふれるまちにしましょう。
  - 1、子どもたちの笑い声は宝物、みんなで見守り育てましょう。
  - 1、感謝の気持ちを大切に、元気で働き、仲よく住みよいまちにしましょう。

